



新型コロナウイルス事情で外出自粛となつています。セイコー農園も電車で来られなくなったメンバーがほとんどになりましたが、私は近隣なので車で行って爾々と作業を進めています。今回は、雨よけ休憩所作業場作りを紹介します。これから夏になると、炎天下の畑では太陽光を遮るものがありません。そこで、当初から計画していたのが雨よけと日よけができる休憩所です。ゆくゆくはブドウを茂らせるのですが、今年は間に合いません。インゲンやヤマイモやニガウリなど、性の野菜を茂らせて、日陰にする予定です。

休憩所作りを開始



設計は、単管で組んだ棚の上に直管でパイプハウスと同じような雨よけの屋根を取り付けます。単管は3段を21本と1段を7本使います。3段の単管は柱に8本使い、地中に1段打ち込みます。

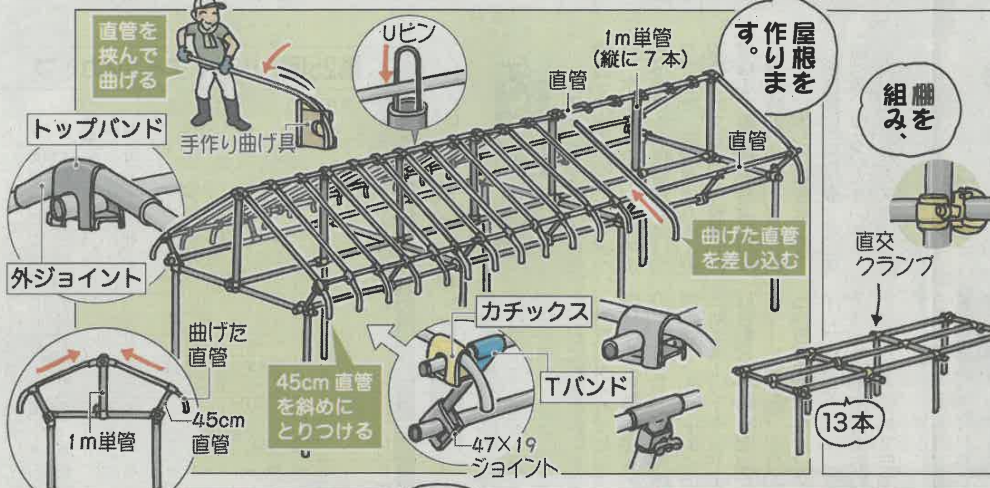
1本目の柱を打ち込んだ時、作業は意外と大変でした。ハンマーで打ち込むのですが、なかなか地中に入っていくが、四苦八苦しました。表面はふかふかでも地下には硬い層があります。その後は通販で見つけた直径40mm、長さ45cmのインパクトドライバー用のドリルビットが、リード穴を開ける上でとても便利で役に立ちました。休憩所の広さは約3段

炎天下の作業に備え



×9段になります。立てた単管の柱の上に、直交クランプで単管を13本横渡しして棚状にします。さらに中央に横渡した単管には、7本の1段の単管を上向きに直交クランプで取り付けます。雨よけの屋根を作るためです。1.5段間隔で7本も取り付けるのは、積雪対策です。両脇の単管には、45度切った19mmの直管を47×19のジョイントで斜め外側上向きに片側7本ずつ取り付けます。その間に直管を横渡しして、Tバンドで固定します。骨組みの最後は、農ビを固定するためのピンセットを周囲にジョイントで固定します。後は幅460mm、長さ12段の農ビ加工品を張ってビニェットにスプリングで固定します。性の野菜のつるが巻くように単管の間に針金を張って、棚を完成させます。

天井にも直管を横渡ししてUピンを刺して留め、直管には外ジョイント、農ビを必要です。既にカラーコーンパネと2×4材と木ねじで作ったものがありますが、シンプルながら意外と丈夫なので、もう少し作っていくつもりです。(東京農業大学クリーニアアカデミー講師・福田俊)



イラスト・川野郁代